



福島正則 広島市内遺跡ガイドマップ

※無断転用を禁止いたします。

①広島城

毛利輝元が太田川河口の三角州上に築いた城です。天正17(1589)年に築城がはじまり、2年後の天正19(1591)年に輝元が入城しました。しかし、慶長5(1600)年の関ヶ原の戦いの結果、輝元に替わって正則が広島城に入り、初代広島藩主として安芸・備後二か国を統治することとなりました。

現在の天守は、昭和33(1958)年に鉄筋コンクリートで復興されたもので、武家文化や広島城に関する資料が保管・展示されています。



③外郭櫓跡

広島城の西側には、本川(旧太田川)に面して二重櫓が立ち並んでいました。河岸緑地には、現在でも櫓台の石垣の一部が露出しています。慶長5(1600)年、毛利輝元に替わって広島城へ入城した正則は、翌年から大規模な城の増改築を行います。広島城の縄張りには、正則の時代に完成したと考えられています。なお、櫓跡の石垣には「刻印(こくいん)」とよばれる様々なマークが刻まれていましたが、正則の置いた六支城の一つ亀居城のものと共通することから、西側の外郭櫓は亀居城と同じ福島期に築かれたと考えられています。



⑤胡社(胡子神社)

正則は、毛利時代の城下の町割りを変更して西国街道沿い一帯を町屋とし、商業の発展を図りました。胡社(胡子神社)は、従来、侍町であったこの地を正則が町屋としたときに、西引御堂(にしひきみどう)町(現在の中区十日市町・広瀬町)から移されました。

現在も一帯は繁華街としてにぎわい、毎年11月に行われる「胡子大祭(えびす講)」は、広島市の秋の風物詩となっています。



⑦国泰寺

前身は、毛利氏の外交僧であった安国寺恵瓊(あんこくじえい)が文禄3(1594)年に建てた「新安国寺」です。関ヶ原の戦いの後に正則が弟の普照(ふしょう)を呼び寄せて住職とし、宗派も曹洞宗に改め「国泰寺」と改号しました。正則改易後も、新たな藩主浅野氏の菩提寺として保護されました。昭和53(1978)年に西区己斐に移転しましたが、跡地にはかつて境内にあった愛宕池跡が残されています。



「鳳来山国泰寺」(大正13(1924)年広島市編・発行「広島市史 社寺誌より」・広島市公文書館提供)



現 愛宕池跡

- 〈凡例〉
- アストラムライン
 - 市内電車
 - 山陽本線・可部線
 - 山陽新幹線

②崩れた石垣

正則が、城の無断修築をとがめられた時に壊した跡と考えられる石垣。元和4(1618)年、正則は前年の洪水で破損した城の修築を行いました。武家諸法度で定められた幕府への届出を怠ったとみなされてしまいました。当時の将軍・徳川秀忠は、広島城の本丸以外の破却と人質の提出を条件に正則を許そうとしましたが、正則は指定されていない本丸の石垣や櫓を破却するなど諸条件を履行しなかったため、改易となってしまいました。



④八剣神社

京橋川沿いの土手に位置する小さな祠。かつて洪水で決壊したこの地の堤防を修築する際、人柱が捧げられるところを、正則がかわりに秘蔵の名剣八本を埋めさせてその代わりとしたことから祀られるようになったと『知新集』(江戸時代後期の地誌)に記されています。

広島城及び城下は、元和3(1617)年の洪水をはじめ、度々大きな水害に見舞われており、城郭の整備とともに、こうした堤防の修築が城下一円にわたり行われたと考えられています。



⑥妙慶寺(妙慶院)

慶長5(1600)年、正則が尾長山の来迎寺を移して菩提寺とし、母の法名より「妙慶」の二文字をとって寺号としたと伝えられます。正則の改易後、広大な寺地は分割され、複数の寺院が配されました。原爆により江戸時代以前の建物は失われましたが、戦後に復興し、現在は都市型寺院の先駆けとされるガラス張りのビルのお寺となっています。



「広島妙慶院」(広島市公文書館提供)



現 妙慶院

⑧不動院

創建年代については不明ですが、もと臨済宗の安国寺で、室町時代には安芸国守護の武田氏の菩提寺となっていました。武田氏の滅亡後に廃れていたところを安国寺恵瓊によって復興・整備されました。正則の入国後は、尾張国の宥珍(ゆうちん)を住持させ、真言宗に改宗し、山号も「不動院」と改められました。



(広島市教育委員会提供)